



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二七四号）

立夏りっか

五月五日

## 花祭

旧暦四月八日は、お釈迦しゃかさまの誕生日。寺院では、季節の花で飾った小さなお堂がお目見えし、お参りする人々が誕生たんじょうぶつ仏に甘茶をかけて、誕生を祝います。季節の花を飾り、お祝いするため、花祭と呼ばれるようになりました。久しぶりに花祭へ行くと、誕生仏を納めた花御堂はなみどうは、赤やピンク色の椿を中心に洋花も混ぜて飾られていました。その華やかなこと。なるほどお釈迦様の誕生日に、花祭と呼ばれるのも合点がいきました。これはお釈迦さまが生まれたルンビニー園が花園であったという説によります。

菜の花の御寺も桃のおん堂も

仏うまるる人まうでかな

与謝野晶子

明治生まれの歌人、与謝野晶子が参った花祭は、菜の花や桃など野の花で彩られていたようです。同じ時代の正岡子規も、ツツジやげんげん（レンゲ）を、江戸時代の俳人、千代女は蚊帳かやつりの草を詠み込んでいますから、当時はもっと素朴な花御堂だったのかもしれない。

小さな誕生仏が、右手を挙げ、左手で地面を指す姿であるのは、生まれたばかりのお釈迦さまが七歩あるき、「天上天下てんじょうてんげ 唯我独尊ゆいがどくそん」と言われたことに由来します。

僧侶は、「この世に生を受けたあらゆる命が尊いという意味です」と説明されました。この世に生を受けた一人であるからこそ、自分の命だけでなく、誰もが尊いということです。それは人だけでなく、生き物すべてを大切にすることにつながるということなのでしょう。仏の生れた花祭は、仏の教えを伝える日でもありました。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ 風の市

春から夏へ移り変わる頃、時折吹く風に青葉の匂いを感じます。

伊勢神宮では、風の神様に五穀豊穡をお祈りする「風日祈祭」<sup>かざひのみさい</sup>が5月14日に執り行われます。これに合わせ、おかげ横丁では、伊勢の爽やかな風を感じていただく「風の市」を開催いたします。

と き／5月12日(土)～20日(日) 10:00～17:30

ところ／おかげ横丁一帯

## ● 風鈴の市

種類さまざまな風鈴を展示販売いたします。心地よい伊勢の風を楽しみながらお気に入りを見つけてください。

ところ／赤福別店舗側特設屋台

## ● 手作り教室 ※平日16:30、休日17:00まで受付

風にちなんだ手作り教室です。

ところ／おかげ横丁内「特設会場」

参加費／風車作り 500円、うちわの絵付け 500円、  
風鈴の絵付け 1,200円

五十鈴塾

## ○ 謎のサルタヒコ神

サルタヒコはどこを居所とする神様なのでしょうか。

赤ら顔で鼻高、ある時は神話のなかに、ある時は神楽の舞台、ある時は祭礼行列でその姿を見かけます。また、洞窟や海辺の岩でサルタヒコ神を感じた人もあります。

ヤチマタを領有するこの神の謎をともに探求してみませんか。

と き／5月18日(金) 13:30～15:00

講 師／櫻井 治男(皇學館大学大学院特別教授)

参加費／一般1,300円 会員800円

集 合／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

ナンジャモンジャ

外宮・勾玉池のほとりに咲くヒトツバタゴの木。別名をナンジャモンジャといい、緑と白のコントラストがみごとです。白く細やかな花々を山芋を使ったきんとんで表現しました。

<sup>じんぐう</sup> <sup>ばら</sup>  
神宮の薔薇

神宮会館が建つ丘は、かつて山荘のあった場所で、一帯が如雪園と呼ばれるのはその名残りとのこと。葛寒天を花びらにし、白餡の中に包んだ薔薇の優美な姿をどうぞお楽しみください。

<sup>ナ</sup>  
菓つばめ

黄色いくちばしを広げ、親ツバメの帰りを待つ赤ちゃんツバメ。そんな光景をお菓子で表現いたしました。菓は道明寺と黒糖羊羹。可愛いくちばしはレモンです。